

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA



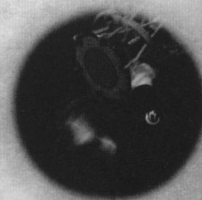
第192回定期演奏会

The 192nd Regular Concert

明日への扉を開くⅡ

～創造の歴史と未来～

Opening the way to tomorrow Ⅱ



2008年 **9月25日** [木]
午後7時開演 (6時30分開場)
津田ホール

主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
助成：平成20年度文化庁芸術創造活動重点支援事業
(社)私的録音補償金管理協会 (sarah)

◆日本音楽集団： <http://www.promusica.or.jp/> E-mail： office@promusica.or.jp



皆様、本日はご来場を賜り誠にありがとうございます。

日本音楽集団「研究会」は、邦楽合奏の恒常的研究と新しい作品の創出を趣旨とし、若手の団員を中心に2000年に発足。これまでに定期的に試演研究を実施し、その研究発表の場として毎年の公開コンサートを実施して参りました。

本日は研究会によります第二回目の定期演奏会です。幅広い意見を集め、検討・企画した結果、強い個性と色褪せない魅力を持つ作品、また長年にわたる作曲家と演奏家の共同作業の上に新たに今夜生まれた新しい作品など、研究会ならではのプログラムを皆様にお届けできることとなりました。創造の軌跡と現在、そして未来。どうぞお楽しみ下さい。

■日本音楽集団「研究会」コンサート実績

《 第1回 》

(2002年8月22日：ティアラこうとう小ホール)

- さくら(福嶋頼秀 編曲)
- 浜辺のうた(秋岸寛久 編曲)
- 五声のコンチェルティノ(福嶋頼秀 作曲)
- 笙と十七絃のためのソナタ(真鍋尚之 作曲)
- 二つの諧調(秋岸寛久 作曲)
- 二つの即興的幻想(福嶋頼秀 作曲)

《 第2回 》

(2003年3月10日：日暮里サニーホール コンサートサロン)

- 雅俗四響(和田薫 作曲)
- 星涼之賦(川崎絵都夫 作曲)
- 萌生(秋岸寛久 作曲)
- 呼吸Ⅱ～笙のための～(真鍋尚之 作曲)
- 二つの即興的幻想(福嶋頼秀 作曲)

《 第3回 》

(2003年8月26日：けやきホール)

- Una luz en el mar 海の中の光(アルフレッド・ローランド・オルティス作曲・秋岸寛久 編曲)
- 「水」第五(宗像和 作曲)
- トポロジカル・スペース(秋岸寛久 作曲)
- 4つのプロフィール(福嶋頼秀 作曲)

《 第4回 》

(2005年3月8日：けやきホール)

- 星月夜(三宅一徳 作曲)
- 箏四重奏曲(真鍋尚之 作曲)
- もう一つの軽みの曲(福嶋頼秀 作曲)
- 尺八三重奏(川崎絵都夫 作曲)
- 組曲「オイディプス」(真鍋尚之 作曲)

《 第5回 》

(2007年1月26日：津田ホール 第186回定期演奏会)

- トポロジカル・スペース(秋岸寛久 作曲)
- 尺八三重奏曲(川崎絵都夫 作曲)
- Reisenkraft—邦楽器のための—(真鍋尚之 作曲)
- 寓懐あまつかぜ—5人の和楽器奏者のための—(尾形敏幸 作曲／桑名小弓 作詞)
- 4つのプロフィール(福嶋頼秀 作曲)

未来に向かって

日本音楽集団代表 田村拓男

今回のタイトル「明日への扉を開くⅡ」には～創造の歴史と未来～という副題がついています。創立45年を迎えようとしている日本音楽集団にとっては、短いけれど確かに一つの歴史をたどり始めています。今年1月には長澤勝俊氏を失い創立団員は2人となりましたが、代わって未来を見据える有能な若手メンバーが現れて発展・継承が行われるのも必定です。

第1回定期演奏会(1964年11月、丸の内第一生命ホール～第19回芸術祭参加)プログラムの冒頭挨拶には1000字を超える壮絶な文章が載っています。スペースの関係でご紹介できないのが残念ですが、今後の邦楽・洋楽界の未来を見据えたこの文章と「尺八三重奏曲」(清瀬保二作曲)、「子どものための組曲」(長澤勝俊作曲)、「くるだんど」(三木稔作曲)などの演奏デビューは邦楽・洋楽界の評論家らを喚起し、後の現代邦楽の流れを創出していきました。

次代を担う若い作曲家や演奏家らによるこのコンサートが、未来に向かって発展することを祈り、同時に多くの皆様方のご理解・ご支援を賜りますようお願いする次第です。

一、邦楽器群の為の協奏的変容「傀儡曼陀羅」 今井重幸作曲(1996年)

Metamorfosi Concertante "Kugutsu Mandara"

per Istrumenti musicali der Giapone, comp.by Imai Shigeyuki

[笛] 越智成人 西川浩平

[尺八] I 阪口夕山 渡辺淳 II 原郷隆 元永拓

[三味線] 山崎千鶴子

[琵琶] 首藤久美子

[箏] I 熊沢栄利子 渡辺正子 II 桜井智永 彦坂恵美

[十七絃] 城ヶ崎美保 丸岡映美

[打楽器] 高橋明邦 望月太喜之丞

[指揮] 稲田康

二、「泥と体温」(改訂初演)大塚茜作曲(2006年)

Mud and Body Temperature, comp.by Ohtsuka Akane

[尺八] I 元永拓 II 渡辺淳

[箏] I 桜井智永 II 彦坂恵美

[十七絃] 久本桂子

休憩・・・・・・・・・・

三、「邦楽アンサンブルのための“残像”」 福嶋頼秀作曲(委嘱初演)

第1楽章 恋唄 第2楽章 吐息 第3楽章 情念

"An Aferimage", for Japanese Instruments Ensemble, comp.by Fukushima Yorihide

[笛・能管] I 越智成人 II 西川浩平

[長唄三味線] I 穂積大志 II 守啓伊子 III 簗田弘大

[義太夫三味線] 山崎千鶴子

[十七絃I・地歌三絃] 渡辺正子 [十七絃II] 久本桂子

[締太鼓] 多田恵子 [太鼓] 島村聖香 [小鼓] 望月太喜之丞

[唄・語り] 首藤久美子 [唄] 久保田晶子

[指揮] 福嶋頼秀

四、「箏四重奏曲」 真鍋尚之作曲

Quartetto for KOTO, comp.by Manabe Naoyuki

[箏] I 久東寿子 II 彦坂恵美 III 丸岡映美 IV 熊沢栄利子

五、「凸～三群の三曲と日本太鼓のための協奏曲～」

三木稔作曲(1970年)

Convexity

Concerto for three groups of Sankyoku and a Japanese drum, comp.by Miki Minoru

[能管・笛] 越智成人 西川浩平

[尺八 高音] 渡辺淳 原郷隆 [尺八 低音] 阪口夕山 元永拓

[細棹] 穂積大志 簗田弘大 [低音] 守啓伊子 [太棹] 山崎千鶴子

[琵琶] 首藤久美子 久保田晶子

[二十絃] 熊沢栄利子 久東寿子 [箏] 桜井智永 渡辺正子

[十七絃] 久本桂子 城ヶ崎美保

[日本太鼓] 多田恵子

[指揮] 稲田康

くぐつまんだら
邦楽器群の為の協奏的変容「傀儡曼陀羅」

(1996年)今井重幸作曲

傀儡(くぐつ)とは日本古代の漂泊芸能民の集団で、狩と曲芸に長じ、今様を歌い操り人形を舞わせる傀儡師として諸国を放浪した。その態様に関しては平安時代の大江匡房によって「傀儡子記」に克明に記述されている。その後、義太夫節に合わせる辻芸から慶長年間には人形浄瑠璃の発祥に結びつくのである。

又その源流を辿ると朝鮮半島、そして中国には今も残存する「扁担木偶戲」、「斜箭提陽戲」に到達する。四川省広元の秘境龍江村の李家に今も伝承される祭儀に使われる三十二体の傀儡戲。

「傀儡曼陀羅」はそのような汎東アジア芸能の二千年にも亘る流転の軌跡と、傀儡師達のヴァイタリティーのイメージを、序章から終章に至る連続する五章で構成。大曼陀羅の視覚表現の構図を邦楽器の音感覚で捉え、それを発展・展開・変容し表現した作品。

泥と体温

(2006年)大塚茜作曲

ぬめぬめと私の足下を這うものはなんだ。

ああ…素足であった。

そしてそれは泥であった。

生き物ではない、生き物ではないのだが、

足の・指の・股を這い回る、体温。

この汚泥から抜け出さねば。

しかしその為には

やはり体温が必要なのではないか?

邦楽アンサンブルのための“残像”

(委嘱・初演)福嶋頼秀作曲

第1楽章 恋唄

第2楽章 吐息

第3楽章 情念

初めて唯遊湯人(たゆたふと)氏の詩集『残像』を読んだ時、その語感の音楽的な流れに、たいへんうっとりしました。曲名の“残像”、各楽章の副題“恋唄～吐息～情念”は、彼の詩のタイトルによっています。

この曲で中心となる楽器は、笛・能管、締太鼓・大鼓・小鼓といった打楽器、長唄・義太夫三味線…これらは、華やかな歌舞伎の世界の音楽で中心となる楽器たち。

これらにしなやかな表現が得意な地歌三味線や十七絃、そして唄・語りが加わります。

“恋唄～吐息～情念”という艶やかな世界を、歌舞伎音楽を現代的な感覚でふくらませて、表現しようとしたのがこの作品です。本団体の若い世代の奏者が中心となった、熱い演奏をどうぞご期待ください!

箏四重奏曲

真鍋尚之作曲

時々、ふと、取り憑かれたように曲を書きたくなることがある。

そんな想いに任せて自然なままに書きたい時だけ書き進んだ曲。スケッチの段階から日本音楽集団研究会において箏奏者との共同作業により二度の試演を経て2003～04年、一年の歳月をかけ作曲した。

ひとつの旋律が4人の奏者により分割・結合・協調などしながら発展していく。

楽譜は二重奏または四重奏で演奏できるような書いている。2人または4人あるいはそれ以上で演奏して頂きたいと思っている。

とつ 凸～三群の三曲と 日本太鼓のための協奏曲～

(1970年)三木稔作曲

三群の三曲合奏を舞台の左(尺八高音・十三絃箏・太棹三絃)、中(能管及び篠笛・二十絃箏・琵琶)、右(尺八低音・細棹三絃・十七絃箏)に配置し、それらを統轄する形で打楽器がいる。

個性の強い日本の楽器の特徴を生かして、伝統的でありながら極めて現代的、瞑想的かと思えば血の湧き立つリズムが延々と続く。発想・構成ともに絶対的な名曲である。

曲の構成は2つの部分から成っており、「第一部は私たちの芸術音楽の理念から私なりの継承を行いつつ、それらへの苛立ちの表明をしたつもりです。奏者たちは本質的に自由であって欲しいのです。

第二部では第一部で沸騰して抑制できなかったものが自然にこぼれるように動き出してリズムが形成できたらなあと考えました。(三木稔・レコード解説より)」

「この事業は、(社)私的録音補償金管理協会の助成を受けて行われています。著作権法の規定によれば、政令で定められたデジタル方式の機器・媒体により私的使用のために録音する場合は、補償金を支払わなければならないませんが、その補償金はMDなどの価格にあらかじめ上乗せされています。支払われた補償金は、sarahを通じて権利者に分配されるほか、一部は共通目的基金として著作物の創作や音楽の振興及び普及に資する事業を助成するために、使われています。」

大塚茜

幼少よりピアノを始め、高等学校在学中Heavy Metalに傾倒。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。箏奏者の市川慎、山野安珠美、吉川由里子、トランペット奏者の織田準一、マリンバ奏者の大熊理津子、中林愛子の各氏や、尺八トリオ「般若帝國」、箏カルテット「螺鈿隊」等に楽曲を提供している。主な作品は「Breathtical Metal」「火灯窓」(3尺八)、「ひめはちどり」(箏)、「小雨待つ家」(二十五絃箏)、「紫雲」(箏、尺八)、「闇を切り拓く者たち」(1箏、3尺八)、「全速カウマン」(Mar.、Pf)、「酔いどれボルカ」(Trp.、Pf)等。作曲を南弘明、北村昭、松下功、ピアノを角聖子の各氏に師事。



Ohtsuka Akane



Manabe Naoyuki

真鍋尚之

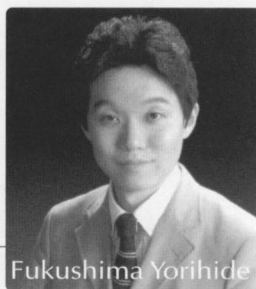
洗足学園大学(専攻一作曲・声楽)、東京芸術大学邦楽科雅楽専攻卒業。第18回神奈川県合唱曲作曲コンクール1位なしの2位。第1回国立劇場作曲コンクール優秀賞(1位)受賞。東京・邦楽コンクール第1位など作曲及び演奏での受賞多数。2000年より紀尾井ホール、浜離宮朝日ホールにてリサイタルを開催。笙という楽器の可能性を追求した演奏会を開いてきた。CD「真鍋尚之の笙リサイタル」も発売。小野雅楽会、十二音会会員。

今井重幸

作曲を伊福部昭、Edgar Varèseに師事。主な作品には「悠久の舞」、詩的断章「草迷宮」、「埴輪の舞」「打楽器群とオーケストラの為の協奏的変容(沖縄)」、他に映画音楽「愛は惜しみなく」「命どう宝」「繪金」「神々の履歴書」等、TVドラマ「蜘蛛の糸」「杜子春」「ビルマの豎琴」等、舞踊・演劇・映画・テレビ等の音楽が多い。邦楽作品としては「農楽舞」「青峯悠映」「仮面舞第二番」「斜箭提揚」「秋のインテルメッツォ」等がある。現代舞台芸術協会理事長、日本フラメンコ協会理事。



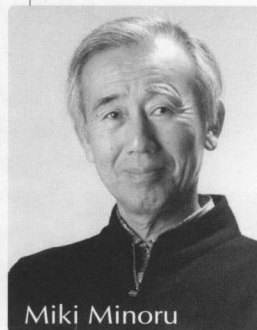
Imai Shigeyuki



Fukushima Yorihide

福嶋頼秀

1967年生まれ、慶應義塾大学卒。東京フィル、東京都響、仙台フィル、京都市響といった国内主要オーケストラからの編曲依頼等が多数。日本を代表する指揮者・ソリスト・ポップス系アーティストらが演奏している。2003年にはチョン・ミョンフン監督指揮のコンサートの構成編曲を担当し、DVD化される。またファミリーコンサート等の構成司会も多数。土曜ワイド劇場、月曜ドラマスペシャル、ミュージカルや舞台などの劇伴音楽も多数手掛ける。さまざまな邦楽器のための作曲作品も多い。



Miki Minoru

三木稔

《春琴抄》から《源氏物語》《愛怨》まで「三木稔、日本史オペラ8連作」が05年に完結。日本音楽集団(1964)以来、三木オペラ舎(旧歌座)・結アンサンブル・オーケストラアジア・オーラJ・アジア アンサンブル・北杜国際音楽祭を創立し、例のない創造・プロデュース活動を国際的に展開。《急の曲 Symphony for Two Worlds》などの管弦楽曲、欧米で1万回も演奏の《Marimba Spiritual》など室内楽・打楽器作品の多くは国際的なレパートリーとなっている。芸術祭大賞・紫綬褒章等受賞。各種楽譜・CD「三木稔選集I~VII」・著書「日本楽器法」など出版多数。詳細は <http://www.m-miki.com> 参照。

日本音楽集団定期演奏会『モニターボランティア』募集

日本音楽集団では定期演奏会にご来場頂き、お客様の視点からの印象や感想などをレポートしていただく《モニター・ボランティア》を募集いたしております。ご意見は音楽集団の定期演奏会の運営に役立たせて頂く他、「モニター・レポート」として音楽集団のHP上で公開することもあります。

- 応募方法/本団事務局宛に、応募用紙と共に作文を送付していただきます。
- 第11期締め切り/平成20年10月15日(月)必着
- 第11期モニター期間▷1年間(第193回~196回の連続4回の定期演奏会)

ご希望の方は演奏会場で、又は日本音楽集団事務局へお問い合わせ頂き、詳細な応募要項をお求め下さい。

●ニッポニア・ファイブ● 募集中

連続5回の定期演奏会がお得な料金でフリーパスになる他、数々の特典があります。

●ニッポニアAファイブ=前売り定価5,000円のA指定席を5回連続15,000円

●ニッポニアBファイブ=前売り定価4,000円のB指定席を5回連続12,000円

以上詳細は日本音楽集団事務局までお問い合わせ下さい。

●賛助会員へのお誘い●

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動の定着と発展を目指したく、ご協力をお願い申し上げます。

年間 個人会員10,000円(一口以上) 法人会員30,000円(一口以上)

【賛助会員】五十音順

法人

(株)全音楽譜出版社

(株)宮本卯之助商店

NPOトリートメント・ネットワーク

個人	青柳堯大関富枝後藤陽子宮川慶子
	安達眞五太田颯衣四反田素幸渡辺邦子
	新井克輔大塚悦子棚野正士
	飯塚絹子川壁正土井恵見
	江西緑岸彰則水野正徳

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp

純粋に愉しむ

株式会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15

TEL 03(3792)8481 FAX 03(3792) 8437

URL : <http://kinko-do.com/>

E-mail : tokyo@kinko-do.com